

平成２７年度第３回府中市立図書館サービス検討会議議事録

日 時 平成２８年２月１８日（木）午前１０時から１２時
会 場 府中市立中央図書館 ５階会議室
出席者 栗田博之委員、茅原幸子委員、夏目雅裕委員、小島茂委員、
北谷豪委員、高橋博子委員、大石千鶴委員、渡辺信子委員

事務局 坪井図書館長、山本図書館長補佐、佐藤地区図書館担当主査、
田代、平野、菅沼（記録）

１ 開会

２ 議題

栗田 本日の議題に従ってすすめる。他自治体の資料を参考に、１０周年のイベントをどのように行うか広く意見をいただきたい。事務局より、資料の説明をお願いする。

事務局 ルミエール府中が平成１９年１２月にオープンし、８年過ぎたところである。平成２９年の１２月で、開館１０周年を迎える。開館５年の時には特に何も行っていない。ＰＦＩの事業は１５年契約なので、１０周年で行うのがちょうどよいと思われる。再来年度、平成２９年度の事業となるため、来年度中に予算を計上することも含めて検討していきたい。１０周年を迎えられたことを感謝してお祝いしたい。この１０周年をきっかけにルミエール府中に来ていただけるようなイベントにしていきたい。資料は多摩地域２６市の記念事業や府中市立図書館の５０周年イベントについてのものである。参考にみていただきたい。利用している方が、こんなイベントがあったら楽しいのではないかという案があれば、皆さんよりアイデアをいただきたい。他市で行っているものと似たものでも、ここに載っていないものでも、色々な意見を出していただきたい。

栗田 資料に目をとおしていただいて、自由に意見をお願いしたい。意見集約をしなくていいということである。

事務局 予算を考えずに色々なアイデアをいただきたい。

茅原 ５０周年のときの市民の反応や参加はどうだったのか。

事務局 資料の中に５０周年事業の時の企画書があるので、ご覧いただきたい。主なイベントとしては、北村薫氏の講演会、オカリナ奏者宗次郎さんの演奏会を行い、５０周年記念のバッグをＰＦＩ事業者で準備して配布した。講演会や演奏会はコンベンションホール全部を使って、定員６００名のところほぼ満席だった。宗次郎氏の演奏会は夕方からだったが、多くの方におこしいただいた。また、当日はルミ

エールの1階、2階を使い、いくつかのイベントを行った。例えば、第1・2会議室では、昔の郷土の映像資料をDVDで流し、時々解説を入れる形のイベントなども行った。解説は郷土の森博物館のボランティアの方にやっていただいた。定員50人の部屋に30人程度の参加者だった。1・2階、3～5階の図書館部分全部を使っただけのイベントを行い、多くの方に来ていただいた。正面玄関で社会福祉法人ギャロップで、クッキーの販売を行った。1階レストランでは特別メニューを作って販売した。図書館の50周年だが、全館あげてイベントを行い、好評だった。

大石 図書館の50周年について市報では見たかもしれないが、こういうイベントをしていたという記憶がない。今度の10周年の時は多くの方が10周年イベントを行っているということを知るようにした方がいい。三鷹市の図書館を見ると周年をきっかけに図書館サポーターの募集がある。10周年の時に自分たちがこういうことをやった、市民が招かれるのではなく、関係していくという形がいいと思う。特にこれから先府中市を作っていくであろう子ども達に体験をさせるのはどうか。例えば、時々「絵本をつくろう」というイベントがあるが、子ども達に絵本を作ってもらって、図書館でその時だけ貸し出すなどというのはどうか。学校には負担だが、学校で1冊作る、あるいは学校ごとに代表作を募集してもいい。大学生、高校生、中学生、小学生と幅広い年齢の方が同じ課題で作ったものをお互い見ることで異年齢交流にもなる。10周年の時にこんなことをやっただけだと子ども達の心に残るのではないか。その子ども達は、20周年、30周年の時も、図書館に対しての思いが強まっていくのではないか。

栗田 前回の50周年事業では、市民、ボランティアの方が加わったものはなかったのか。

事務局 ボランティアが加わった企画はなかった。企画書の(5)「私の一冊アンケート」は、市民に参加していただいたものである。当日アンケートをとったのではなく、事前に利用者のおすすめの本をアンケートでうかがってまとめて当日はその本を展示した。

栗田 お客様として来ていただくだけではなく、主催者側にまわってもらうというやり方を最近では色々なところを取り入れている。図書館のボランティアの方々も常日頃積極的に活動されているので、ボランティアの方々が加わる企画などがあつた方がいいのではないか。ボランティア活動を紹介するというやり方はよくあるが、日常の活動の延長となってしまうことが多く、イベント性が低いので、その時に合わせて何か企画を考える必要がある。この検討会議では、参加者が主催者側にまわるなど、どのような企画の可能性があるか提案していただく場である。今、一つ提案があつたが、同じように、どのようなやり方や巻き込み方があるか、広報の体制などについてもご意見いただきたい。

- 渡辺 周年イベントは色々なところで行われているが、主催者側が時間をかけて、準備して行っても、参加する側はすぐに忘れてしまう。大石さんが言ったように、あの時こんなことをしたと残るものになると良い。企画を市民から募っても良いと思う。子どもの読み聞かせを頑張ってやっていらっしゃるグループが利用できるような小さな施設等を作っても良いのではないかな。また、推薦図書アンケートをとったと聞いたが、本屋大賞に倣ってルミエール大賞を作って、募集するのはどうか。ただし、1年・2年かけて継続的に宣伝しないといけないと思う。
- 「10周年の時にルミエール大賞が始まった」などと記憶されるものとなしてほしい。
- 栗田 前回イベントのあと、参加された方のアンケートはとったか。
- 事務局 アンケートをとった記憶はあるが、今詳細は覚えていない。イベントごとにアンケートをとったと思う。電子書籍や本の修理コーナーなどについては、人数が多いわけではなかったが、今後も行っていきたいという意見があったので、今でも書籍の修理コーナーは定期的に続けている。好評だったものは、サービス向上ということで、続けている。
- 大石 その日ピンポイントでイベントめがけていく方もいると思うが、10周年だったという印象が残りにくい。例えばイベントを行う日の前後1週間で10周年期間とし、あまり手のかからないことだけ2週間行う。たまたま来た方が、府中の歴史を見ていこうということにもなる。私が提案した子ども達が作った絵本を貸し出すというのは、その2週間だけということでやりやすいのかなと思う。子どもはいつもは借りる側だが、貸す側になるという体験になる。
- 栗田 1日にすべてのイベントをやるつもりなのか、メインのイベントの日はあるが、その前後1週間ほどの期間も行うのか。
- 事務局 1日だけだと都合が合わないに参加していただくことができない。1ヶ月、2ヶ月など長期間は難しいが、多くの方に来ていただけるように、ピンポイントだけでなく、幅広く複合的に考えていきたい。
- 栗田 メインのイベントは土日に行うつもりか。
- 事務局 多くの方に来ていただけるのは、土日である。
- 栗田 メインイベントは特定の日にを行うということになる。
- 事務局 50周年の時は記念式典を行い、市長のお言葉などもいただいたが、今回ルミエール開館10周年として行うかはまだ未定である。
- 渡辺 市の施設にはたくさんのポスター、チラシが各所から送られてくる。一つ一つ見れば良いものだが埋もれてしまう。特に目立つように、ポスターにはお金をかけてもらいたい。きちんとしたデザインで良いものを作ってもらいたい。まず目立たないと、来てもらうことができないと思う。
- 大石 美術館のチラシは厚紙カラーで目立つ。あのくらい力を入れてもいい。白黒でも

デザインがいいといいかもしれないが。

茅原 広報ふちゅうの使い方をうまく考えるといいのではないか。

事務局 なかなか図書館はトップページに掲載できない。

茅原 郷土の森はトップページになっているのを見る。

事務局 広報の特集は前年度に調査がくる。その時に10周年をやるので、1面に載せてほしいと交渉をすることはできる。

大石 コマーシャルが入るそのスペースにその月だけ図書館のお知らせを載せるのはどうか。

茅原 子どもがいきそうな場所やお店にポスターを張ってもらうのはどうか。

栗田 現在広報の話になっているので、前回どのような広報をおこなったのか、事務局から説明していただきたい。

事務局 前回のイベントは東京ガスとの共催で行った。北村薫氏の講演会は市主催で、宗次郎氏の演奏会は、東京ガスが主催で開催した。そのため費用は東京ガスにすべて負担してもらっている。ポスターやチラシはカラー刷りの厚紙で東京ガスが負担した。

大石 宗次郎さんを東京ガスが宣伝していたりしたのか。それに協賛したということか。

高橋 このイベントは夕方だったが、混んでいたのを覚えている。

事務局 講演会から演奏会の間があいていたが、その時間に図書館に来ていただいたり、北村氏のサイン会を行った。共催だったので、広告費をかけずに行うことができた。通常は費用がかかる京王線の駅へのポスター掲示をこの建物を管理している京王設備を通してお願いした。このときは広報はかなり力を入れた。一面ではなかったはずだが、大々的に広報を行った。

大石 募集をかけてどのくらいで定員になったのか。

事務局 先着にはなっていたが、チラシ裏面が申込書になっており、来館や郵送など色々な方法で募集をした。資料には残っていないが、1、2日というわけではないが、定員になり締め切った。あとから参加したいという連絡も多かった。

小島 広報の一つで、先程子どもにPRをとという話があったが、小中学校の全生徒に配付することはできる。枚数は必要になるが、子どもに渡せば、親も子どもと一緒に行こうという話になる。

大石 カラーのものを白黒にしてもいいのではないか。子どもの作ってる本があるということになれば、来るのではないか。美術館では美術展などで自分の子どもの作品が出ていれば、親子で来るので集客ができる。

小島 小中学校では、子どもの作品が出ている保護者には連絡をするので、親子で参加される。

事務局 紙自体カラーでもできるし、刷色を変えるということもできるので、工夫はできると思う。

栗田 今回はタイアップは考えているのか。

事務局 今のところ、まだ何もない。

栗田 市の予算だけではかなり厳しい。

事務局 10周年なので、こちらでも財政にプッシュしていきたいと思う。

大石 手をあげてくるイベントはあると思う。今、公共のところに企業が入っていきこうという圧力はあると思う。自分のところの CM に使っている芸人をもっと一般に知らしめるという企業側の目的もある。リサーチすればひっかかるところはいくつかあるのではないかな。

夏目 イベントが決まった時に、積極的に企業に声かけしてもいいのではないかな。企業も社会貢献ということで実績になるので、協力を申し出ていいのではないかな。お互いに利益がある。

高橋 図書館のボランティアはどのような種類のものがあり、どのくらい人数がいるのか。そういう方達が支えないと大変なのではないかなと思う。もし募集するのであれば、今くらいから考えていかないといけないと思う。

事務局 現在の図書館ボランティアは、児童サービスとハンディキャップサービスでボランティアの方をお願いしている。

高橋 前はどのようにボランティアが関わったのか。

事務局 わらべうたや読み聞かせのイベントはあったが、前は職員で行った。

高橋 長いスパンでイベントを考えているのなら、ボランティアの力は必要となってくる。府中市は意識の高い方が多くて、ボランティアを希望する方は多いと思う。1年くらい前から準備する必要がある。それだけ専従ではないが、ボランティアを募るというお考えはあるか。

事務局 市全体としても市民協働を推進している。イベントに合わせてボランティアをお願いするにあたって、継続的にお願いするのがいいか、その場その場でお願いしていくのがいいかはわからないが。例えば、図書館ではハンディキャップのボランティアがいるが、図書館に登録していないボランティアの方、社協のボランティアもいるので、この機会にそういった方々を巻き込んで行うことも可能だとも思う。図書館のサービスを広げていく可能性にもつながる。

高橋 三鷹の資料のところで、図書館サポーターが載っているが、こういった形が定着するといいのではないかなと思う。子どもにも高齢者にもいいと思う。三鷹が色々なことをやっている。中高生のイベントなどもやっていておもしろい。

事務局 三鷹は50周年記念ということで出したが、割合常日頃から毎年図書館のイベントやフェスタなど行っていると思う。また、PR も上手で、新聞記事などにもよく出ている。

小島 普段やっていることを、50周年などの冠をつけてフレームアップしてやっているのではないかな。

- 茅原 三鷹市は図書館と商店街など市民と日頃からよく交流がある。府中市は図書館ボランティアはあるが、市民にはあまり知られていない。それを出していく機会としてもよい。図書館ボランティアとは別にそれ以外の子どもに読み聞かせをするボランティア団体はたくさんいるが、単体で活動している。府中は文庫連もなく、横のつながりがないので、こういう機会にどこかで横のつながりをもてないかと日頃から考えている。準備期間も長く取れるので、参加できる実行委員のような体制を作って、この活動が後々まで続いていくといい。府中は図書館が早くから発達して、地区館もどんどんできていったので、逆に市民や文庫から活発に湧き上がって活動するものが出てこなかった一つの要因になっていたと思う。小学校の方でもボランティアを行っているが、子どもが卒業したら活動は終わりになる場合が多い。卒業しても財産となって市民協働的なところに関わっていければいいと思う。もう一つは、小学校読書ボランティア交流会も毎年やっているが、自分たちだけでやっている就先細りになっている。お互いどんなことをやっているか紹介し合い、知恵を出し合い、細々と続いている状態で10年以上続いている。途中から、図書館の方にも参加していただいて、今年度に関しては、図書館の方に出前講座を行っていただいた。学校と図書館の連携ができたが、そこがあまり見えてこない。交流会を図書館と一緒にできないかと考えている。ボランティアは予算がないので、5年程前に、府中第二小学校では、子ども夢基金を使って交流会を行った。本の修理のプロの方を呼んだり、ストーリーテリングやブックトークの方を呼んだりして謝礼を出せる形で行って好評だった。図書館の「読み聞かせ講習会」は敷居が高いのか、学校ボランティアの方たちはなかなか参加しないので、交流会でそういう勉強会を図書館と共同でやりましたというのがあれば、もう少し盛り上がって持続できるかなと思う。今言った2つのイベントを提案したい。
- 小島 ここにおはなし会、電子書籍などはあるが、見に来て新しいものにふれあうコーナーを作るとしたら、オリンピック・パラリンピックコーナーを作るのはどうか。今年リオで2020年は東京オリンピックがあるので、それらに関する物を集中的に集めて見に来てもらうといいのではないかな。今の小中学生は東京オリンピックにどう関われるかなと考えている子どもも多いので、こういう企画があってもいいのではないかな。
- 夏目 バックヤードツアーはどうか。職員が何をしているのか、裏側を見せて回ってあげるといいのではないかなと思った。相談にのる場合も資料をどんな風を探すのか、など1つだけでなく、色々見せて回るといいと思う。
- 事務局 月1回図書館ツアーを行っている。50周年の時は図書館ツアーは行わなかった。その他の事業に人をかけてしまっていたと思う。
- 夏目 色々なものの中で見せていくのもいいと思う。確かに1つもいいが、色々なこと

やっているんだということを知ってもらえる企画があるといい。

渡辺 自動検索のシステムを見て、感動した。

小島 普段は気に留めないが、10周年記念で広報などに何回も載った時に、バックヤードツアーがあるなら行ってみようかなど、普段流れたものを目にとめてもらえるチャンスになる。

栗田 バックヤードツアーは、いつもは行けないところに行けるので、人気がある。オープンキャンパスなどでも普段は入れない大学の施設に入れるので人気がある。定番として使いやすい企画である。若い人たち対象なら探検隊などの名前をつけて行なうと人気があるのではないかな。

大石 ゲームをやっているところもある。今図書館で相談にのってくれるというお話があったが、意外と子ども達はこれ調べたいと思って、図書館へ行って調べておいでと言っても、本が探せないと言う。図書館の人に調べたい事を伝えれば本を探してくれるといっても、そのことを子どもは知らない。敷居が高く、忙しい職員に声をかけづらい。一人で聞けないので、一緒についていくことになる。それをゲーム形式でやるといいのではないかな。カードを引いてそこに書いてあることに関連する本を探すという形で、職員の人に聞いて探してもらうこともでき、その本の中から一冊借りてくるというゲーム形式にするのはどうか。図書館の職員にこれについて調べたいと質問するのを実際ゲームの中で体験ができる。次に何か調べたいことが出てきた時に、図書館の方に気兼ねなく質問して、丁寧に答えてもらった経験があると、そのあとずっと利用できるようになるのではないかなと思う。その時は競わせてゲーム形式で行うことで抵抗がなくなるかもしれない。

夏目 企画は基本的に図書館で作ってもいいと思うが、本を探してくるというのをゲームにしてもいいのではないかな。探す本はどこかに準備しておいてもいいかなと思うが、それがどこにあるかわからないから、探してみようというゲームにするのはどうか。児童室のエスカレーター側に季節ごとに飾りがあるが、どのくらいで替えているのか。その飾りをデザインはこちらで作るとしても、小さい子向けには、葉っぱ1枚でも形を切ってもらうのはいいかもしれない。また、貼ってもらえると、あれは私が作ったということがまわりに広がり、図書館に来てくれる方が増えるのではないかな。

大石 ゲームの参加要件に図書館利用カードが必要とするのはどうか。そうすれば貸出冊数が増えるかもしれない。

渡辺 女性センターに勤務しているが、「男性も入っていいのかな」と聞く人さえもいる。

栗田 若年層をターゲットとしたアイデアが出ているが、主にターゲットは定めないということでもいいかな。

事務局 特に定めないし、幅広くと考えている。

栗田 幅広くということで、高齢者向けも含まなければならない。

- 高橋 ハンディ担当の立場からみると、点字体験や過去の教科書を振り返るというのを考えている。ハンディに関しては、今元気いっぱいでもいつなるかわからない可能性がある。こういった面の紹介はどうか。高齢者向けに、点字体験、電子書籍とか対面朗読の宣伝も行ってもいいのではと思う。子ども達に本をたくさん読んでほしいので焦点はあてるが、読めなくなってもこういったハンディキャップサービスがあるという紹介は、図書館や市の全体的な考え方としても大事なのではないか。
- 渡辺 図書館を居場所として使っている高齢者の方も多い。ただ単に楽しく図書館で過ごしてもらうことでもいいのではないか。
- 北谷 本を読む時、夜バーで読むことがある。リラックスできる。最近カフェのある図書館が増えている。今、図書館は本を借りる、何かを提供するという役割が強いという気がする。コンサートをする、講演会をするなど。ただ本をゆっくり読む空間を作るというのはどうか。三鷹市のをみるとキャンドルの中で朗読をとというのがある。記念行事のときだけ、大人の方がお酒を楽しみながら、お酒の本を読む。スイーツを楽しみながらお菓子の本を読める空間があるといいかもしれない。その時に普段は図書館で借りられないような本が読めると、こんなことを図書館はやっているということにもなる。どちらかというと、ゆっくり読める環境を作ってあげるのはどうか。
- 栗田 50周年の時は、レストランのメニューを追加し、団体がクッキーを販売したということである。今の話だと、別にスペースを作らなければならない。
- 北谷 レストランに協力いただいて、フリーバーテンダーのカクテルを味わえるスペースを作って、そこで図書館の本を楽しんでという形にすれば、立ち寄る人も増えるのではないか。
- 茅原 大人向けの企画だと思う。商工会議所でも広報はできるか。
- 北谷 商工会議所で会報誌を作っている。市内の事業者が会員だ。日中平日でも自由がきく人たちもいる。この会報誌に図書館の情報をいれてもよいのではないか。JCOMさんは、こちらから発信するとインタビューにきてくれるので活用した方がよい。地域の人を巻き込むのはいいと思う。以前、成人式のポスターを貼ってもらうために、市内事業所をまわった。相手方に特にメリットはないが、協力してくれるところが多い。しっかりとしたポスターを作って、足を使って貼ってもらうためにまわるといいと思う。市内事業者、商店街、自治会、消防団などは、ポスターを貼ってもらうなどの協力をお願いするのにお金のかからないことである。
- 高橋 色々なアイデアが出ているが、PRの方法と行事を支えるボランティアについて考えることが大切である。そちらをしっかりと手当をすることで、初めてアイデアが生きてくるので、早めに検討していくといい。PRの方法やボランティアの数に

- よって、できることも広がるのではないか。
- 茅原 企画段階から関わるといいと思う。当日のボランティアも必要かもしれないが。図書館だけだと実現性を考えてできないこともでてくるが、早い段階から企画で参加して最後まで通して関われる委員会的なものがあるといい。
- 高橋 10周年後も継続してボランティアとして残れる方は残っていただけると、裾野が広がる。
- 茅原 その先もずっとそれがいきてくるのではないか。
- 渡辺 仕事を割り振られるだけではなくアイデアをだしていく存在であるべきと思う。
- 栗田 三鷹は、半年位前から募集している。予算請求の時期を考えると、もう募集しなければいけない。
- 高橋 ボランティアの方は結構集まるのではないかと思います。高齢でも元気な方は増えているし、ボランティアをしようという意識は高い。こういうイベントを機会にボランティアを募集するとよい。社協は色々なイベントでボランティアを募集している。
- 栗田 早めにボランティアを募集した方がよいという意見がでている。
- 高橋 職員の方もそのほうがいいのではないか。
- 栗田 色々なアイデアを出してもらう場合には、なるべく広い層から意見を聞くというやり方がいいのだが、企画等を直接もちこんでもらうようなやり方もある。市民からのアイデアの募集は考えているか。
- 事務局 今こちらでアイデアをいただいている。
- 栗田 主催者側が中心となっていくのはもちろんだが、保守的になりがちなので、保守的でない意見を得るには、視点の違う立場の方から意見をいただくのも一つの方法である。ボランティアとして加わっていただくのではなくても、例えばネットで意見募集などをおこなっても良いのではないのかと思う。時間があるのであれば、そういった方法も試してみてもいいのではないか。
- 茅原 読み聞かせをやっている方たちは、好きでやっているのだから、お金がなくてもできるのだが、チラシの紙代など、市の予算でもってくれば行動を制約されない。何をするにも現在は持ち出しになっている。それを協働でできれば、やっていただける方はいるのではないか。
- 大石 自分の母を見ていても、高齢者向けに読み聞かせや朗読をするのは難しいと思うので、早めにボランティアを募集して、勉強会のような形で市内のデイケア施設などで試しにやってみるのはどうか。朗読劇的なものを3人位で役割分担して行うのもいい。その集大成を10周年で行う、施設にそのボランティアの方達が来てくれたとわかる人達は、10周年当日も行こうかということになる。当日を成功させるには、仕事を上から割り振られて、駒のように動くのではやってる方ものってこない。アイデアを自分たちで考えるところから作り上げていく感覚が大

切だと思う。オリンピックなどは、ブラジルも終わってないのに東京の準備が始まっている。図書館の10周年の準備をするのに早すぎることはない。1年半後に10周年やるので、意見をください、ボランティアを募集するという事によって、あまり意見がなくても10周年を行う周知のきっかけになる。先程京王線にポスターを貼ってもらった話がでたが、西武線もあたっても良いのではないかと思う。

高橋 ボランティアの方に楽しい気分を味わってもらうことが大事だ。自分でその時にどれだけできるかということは別として、協働参画したということがその後に続いていくのではないか。ボランティアは無償でいいと考えている。そういう志の方にその後も残っていただいて、図書館をバックアップしていくというのが良い。地域の方や高齢者を巻き込んでいけば良い。孫の何か発表があるなら見に行くということで人数を増やしていく可能性は高くなる。先程も小学校の発表は見に来るというのがあったが、それと同じことだ。

栗田 本のリサイクルを行っている市もあるが、どうか。

事務局 府中市は各地区館ごとに個々に行っていて、50周年の時にはそれに合わせてということは特に行わなかった。その時期に合わせて色々なイベントがあってもいいと思う。

大石 娘の大学で古本募金というのがあり、それもいいと思う。

栗田 どこに募金をするのが問題になる。寄贈していただいて、募金を図書館に入れるのではなく、資料の整備に使うというのもできる。府中は図書館募金をやっているか。

事務局 やっていない。資料の寄贈は、寄贈された資料を、図書館で利用できるものは利用し、その他は市民に還元という意味でリサイクルをしている。図書館の不要や出版社や市民からの寄贈も中央図書館では定期的にリサイクルとして提供している。一部の地区図書館でも行っている。

栗田 イベントをどこまで網羅すべきかと見てきたが、皆さんの意見は大体同じようなところにいきつくという感じがする。ボランティアの件もあるが、むしろそれを企画したり、実行したりする体制を整える方が重要なのではないかと思う。早めに動いた方が良いという意見が多い。ここでもいくつかアイデアが出たが、巻き込みを広く募った方がいいのではという気がする。予算はいつ頃たてられるか。

事務局 来年度の夏頃から予算をたてる計画を始める。秋ごろから積み立てていくと思う。そういう意味では時間は意外とない。何をするかで、どのくらい費用が必要かを出していかないと間に合わない。

小島 今すぐに検討を始めてもいい。8月に予算検討なら、何をして、どれくらいお金がかかって、どれくらい人が必要か決めるのに半年か1年かかる。

栗田 タイアップとれるかどうかとも早く進めないといけない。前回かなりそれが大きか

ったという話があった。

小島 前回会社が絡んでくれて、上手くできたのではないかな。府中にもたくさん会社があるので、いくつも会社とタイアップすると、市の予算が少なくてもそれなりのことができると思う。

高橋 ラグビーがらみでタイアップはどうか。

大石 HPで企画を募集することで会社の方からタイアップの話がくるかもしれない。タイアップの誘いも載せてみるのもいい。

栗田 前は東京ガスとどういう経緯でタイアップしたのか

事務局 当時の館長が東京ガスの方と懇意にされていた。

大石 ボランティアがたくさん関わってくると、そういう可能性も広がってくる。

小島 ある程度企画が固まれば、こういう企画はどうかと会社の判断できる立場の人に話をもっていけば考えてくれる。

高橋 1社でないとダメということはないのか。

事務局 そういうことはない。

小島 先程ラグビーという話がでたが、今年の成人式でラグビーの選手のビデオレターが評判良かった。

高橋 皆さんそういう事には敏感だ。

茅原 府中はスポーツが盛んだ。

高橋 東芝、サントリーともスポーツがあるが、会社なので企業イメージアップという事で言えばいいことなのではないか。

栗田 実情を言うと、色々なところから申込みがあって、先方も切り分けが大変だということらしいが、ここは郷土へのつながりを強く出していくといいのではないかな。

高橋 どこかで平櫛田中さんのものや大槌町のものがあったり、地域に根差しているものが利用されていることが多い。府中はそういうことは考えていないか。例えば郷土の誰かをお願いするなど。

事務局 今のところまだ考えていない。

大石 大企業でなくてもいいと思う。コナミ、学習塾などはどうか。図書館というところこんでくれるのではないかな。ベネッセはもともと本屋なので声をかけてみる価値があるのではないかな。

栗田 予算がそれほど取れるわけではないことが予想されるので、ボランティアや企業とのタイアップを考えていく。それがないと、市の予算だけではこれだけしかできないでおわってしまうので、10周年を成功させるためには、初めから方針として入れておく必要がある。ボランティアの募集も早めに開始し、口コミで広めていくことも必要である。広報体制をしっかりと作らないとうまくいかない可能性がある。まだ早い段階なので、動けるところは多くある。事務局の方で色々と工夫していったらいいと思う。

渡辺 10周年のイベントを行うということは確かか。

事務局 ルミエール府中としてやるか、中央図書館としてやるかは未定だが、10周年行事を行うことは決まっている。

渡辺 2年後にこのような行事を行うことを、一刻も早く公開をしたほうが良い。

事務局 もう少し皆様の意見をまとめてできるだけ早く動きたいと思う。

3. その他

栗田 次に利用サービスの見直しについて事務局より報告をいただきたい。

事務局 この件については、本日の午後に教育委員会で報告する項目なので、資料はなく、口頭での説明とさせていただく。2点サービスの見直しの項目がある。1点目は、東京農工大学図書館との連携についてである。市内在住在学在勤の高校生以上で図書館の利用登録者は、今年の4月1日から東京農工大学の資料を借用できるようになる。今までは館内閲覧は可能だったが、今後は借用までできるようになる。今日の午後の教育委員会で承認の後、今年の4月1日からの実施となる。2点目は、団体貸出の数量の見直しを行った。上限を300冊から350冊に変更した。こちらも4月1日から実施する。また、前回の検討会議でも集計結果のみ配付したが、資料2の第3期子ども読書活動推進計画の中間アンケート報告集計結果についてを配付させていただいているので、ご覧いただきたい。

栗田 これは第3期の検討会議で扱う予定はあるか。結果ができれば、この会議で意見をいただくことになっていたかと思うが。見ていただいてご意見などある方は、今期中に事務局に申しでていただきたい。

事務局 前回策定の際にアンケートをとり、前期の検討会議でアンケートの内容について委員の皆様から意見をもらって盛り込んだ。そして第三期を策定した。期間が5年間あるので、半分の期間が過ぎたところで、アンケートをとって中間報告をするようこの会議でも意見をいただいていた。結果として、策定当時と傾向的なものは変わらない。現状維持とも努力不足ともとらえられる。これを受けて、4期を考える、また3期の残りの期間でどういうサービスができるかを考える資料として役立てていきたいと考えている。

栗田 中間報告ということなのでこの場で議論するのではなく、資料を見ていただいてご意見などある方は、今期中に事務局にメール等で申しでていただきたい。その他の報告事項はこれで終了とする。では資料3について事務局より説明いただきたい。

事務局 このメンバーで行うのは本日の会議が最後になる。第2期府中市立サービス検討会議の報告書を作成し、教育委員会に報告をする。毎回の会議の内容や成果をまとめたものである。そこで、委員の皆様よりコメントをいただきたい。感想や次回に引き続き検討していただきたいことなど、コメントをお願いしたい。お配りし

たものはこのくらいの分量という見本である。後日メールで依頼をするので、返信をお願いしたい。第1期の際の報告書がHPにアップされているので、そちらを参考にみていただきたい。

大石 私は今期でこちらの任期を終える。利用時間の延長について、現時点でどうなっているのか進捗状況だけでも教えてほしい。

事務局 延長のご要望はあるが、なかなか進んでいない。全部というわけにはいかず、また指定管理も考えていないので、臨時職員の雇用を増やして行うことを考えている。夜間どのくらいまで開館するか、どこかの館で行ってみてその結果をバックして検討していきたい。来年度から始めるというわけにはいかないが、実施検討していきたいと考えている。課題とさせていただく。

栗田 この会議で議論したコンビニエンスストアに返却ポストを設置するというものについてはどうなっているのか。

事務局 利用サービス向上の関係で、いくつか視察に行っている。先日雑誌スポンサー制度についてお話させていただいた。雑誌カバーに企業のPRを載せてそれによってその雑誌を購入していただくというやり方である。練馬と東久留米に行かせていただき、また今週他のところにも視察に行く予定である。それぞれにやり方もちがいが、何年かたってスムーズにいつているところと、始めたばかりのところにも視察に行っている。色々課題も見えてくるので検討しようと考えている。お話のあったコンビニエンスストアを利用している図書館の方も近いうちに視察に行くことになっている。市の状況も変わってきていて、南口再開発ビルに市政情報センターが入り、図書館機能を持たせるという予定になっている。ただ図書館オンラインシステムを入れるのは費用がかかりすぎて難しい。初期費用はいいが、翌年度以降のランニングコストは図書館もちということになる。返却ポストとリクエストの受け取りができるのではないかと考えている。オンラインはひいていないが、コンビニエンスストアを使ったやり方と近いやり方がそちらでできると思う。ただ開館時間は、19時半までの予定になっている。ブックポストは10時までになるのではないかと考える。

高橋 返却が早くなるといいと思う。その後の本のまわりに影響してくると思う。

事務局 建っている場所と動線の関係で便利になるかどうかはわからない。市政情報センターの機能が主なところとなる。中央や宮町より少し駅に近い。PRが必要だと思う。少しでも駅に近く、帰り際に返却できるとPRできれば、返却が早く動くのではないかと考える。

大石 新市庁舎に入る図書館はどうなっているのか。

事務局 市役所の市政情報公開室と折り合いをつけているところである。

栗田 他に何かあるか。以上で本日の会議を終了する。先程お話があった報告書にのせるコメントについては、皆さんの思うところを書いていただきたい。事務局から

の連絡を待って、締切までに送り返していただくようお願いします。私は、2期続けて議長を務めさせていただいた。委員の皆さんが積極的に発言をしてくださったので、議論の仕分けは必要だったが、こちらから無理に意見を求める必要はなく、非常にやりやすかった。活発な意見交換ができ、会議をすすめることができたことを皆様に感謝したい。

閉会